

ふろがまによる事故にご注意ください

浴室のお湯を沸かすふろがま^{※1}（ガス、石油、まき）は一年を通じて使用され、暮らしに無くてはならないものですが、使い方を誤ると事故が生じるおそれがあります。

ふろがまによる事故は毎年100件前後の事故が報告されており、死亡、重傷や家屋の全焼といった重篤な被害に至った事例も多数あるため、使用の際には注意が必要です。

NITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※2}において、ふろがまによる事故は、平成22年度から平成26年度までの5年間に合計667件^{※3}（ガスふろがま（ガス給湯機付ふろがまを含む）471件、石油ふろがま（石油給湯機付ふろがまを含む）194件、まきふろがま2件）ありました。被害状況を見ると火災が291件と多く発生しており、死亡2件、重傷11件、軽傷37件、拡大被害^{※4}187件、製品破損等430件となっています。

事故の原因としては、「誤使用や不注意によるもの」が最も多く213件（31.9%）発生しています。

■ 主な事故事例

- ガスふろがまの点火時に、口火（たね火）がついていない状態で繰り返し点火操作を行ったため、漏れたガスに異常着火してガスふろがまを焼損した。
- ガスふろがまの給排気部が積雪で塞がれた状態で使用したため、未燃ガスが滞留し、その後の点火操作によって異常着火してケーシングが変形した。
- 石油ふろがま（空だき防止装置のない製品）を、空だき状態で運転させたため、過熱して発火し、住宅を全焼した。
- 石油ふろがまを、不着火によるエラー表示が出る故障状態で使用し続けたため、蓄積した未燃灯油に異常着火して周辺を焼損した。

ふろがまによる事故は、長期間使用された製品によるものが非常に多く、合計667件のうち420件、全体の63.0%が使用期間10年以上となっています。古い製品には空だき防止装置や異常着火防止装置等の安全装置が搭載されていないものも多数あると推定されるため、使用の際には注意が必要です。


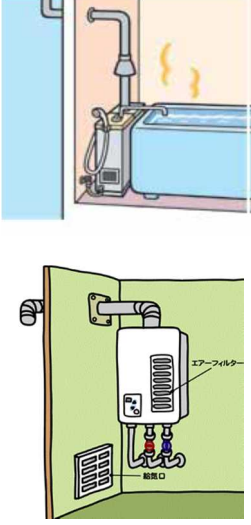
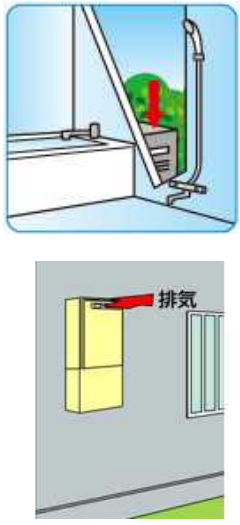
また、リコール対象製品による事故も118件（17.7%）発生しており、このうち105件がリコール実施後の事故となっていますので、リコール情報（別紙3）にもご注意ください。

屋内用ガスふろがま及び石油ふろがまは、長期にわたって使用されることが多く、また、消費者自身による保守が難しいことから経年劣化による重大事故が発生するおそれが高いとして「長期使用製品安全点検制度」の対象になっています（別紙2.3）。対象製品においては、所有者情報を登録し、点検時期のお知らせに従って点検（有料）を受けて事故を未然に防止することが大切です。制度開始以前に製造・輸入された製品や、制度対象外の屋外用ガスふろがまにおいても、製造事業者が任意で行っている点検（別紙2.4）を受けることが事故の防止に有効です。

建物の一部として設置され、長期間使用される「ふろがま」です。今一度製品の正しい使い方を確認し、「誤使用や不注意な使い方」に注意するとともに、点検を受けて、長期使用に関わる事故を防止しましょう。

- (※1) ガスふろがま（給湯器付ガスふろがま、ガスふろがま用バーナーを含む）、石油ふろがま（まき兼用石油ふろがま、給湯器付き石油ふろがま、石油ふろがま用バーナーを含む）及びまきふろがま
 なお、ガスふろがまは機器の設置場所及び給排気の方式によって「密閉式」「半密閉式」「屋外式」に分かれる。

ガスふろがまの給排気方式による分類

設置場所及び 給排気方式	屋内式		屋外式
	密閉式	半密閉式	
燃焼部の位置	屋内	屋内	屋外
給気	屋外	屋内	屋外
排気	屋外	屋外	屋外
	<p>給排気筒で、屋外の空気を取り入れて燃焼させ、燃焼排ガスを屋外へ排出する方式。</p> <p>このうち、自然通気力を利用するものを自然給排気式（BF式、バランス型ふろがま）、動力を利用するものを強制給排気式（FF式）と呼ぶ。</p>	<p>燃焼用の空気を室内から取り、燃焼排ガスを排気筒を通じて屋外へ排出する方式。</p> <p>このうち、自然通気力で排気するものは自然排気式（CF式）、動力で排気するものを強制排気式（FE式）と呼ぶ。</p>	<p>機器本体を屋外に設置。</p> <p>燃焼用空気を屋外から取り込み、燃焼排ガスを排気筒を通じて屋外へ排出する方式。</p>
設置図(例)			

- (※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故（ヒヤリハット情報（被害なし）を含む）。
- (※3) 平成28年2月1日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。
- (※4) 製品本体のみの被害にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと

1. 事故の発生状況

(1) 年度別 事故の発生件数

図1に「年度別 事故発生件数」の推移を示します。

ふろがまによる事故は平成22年度～平成26年度の5年間で667件発生しており、昨年度においても98件の事故が起こっています。

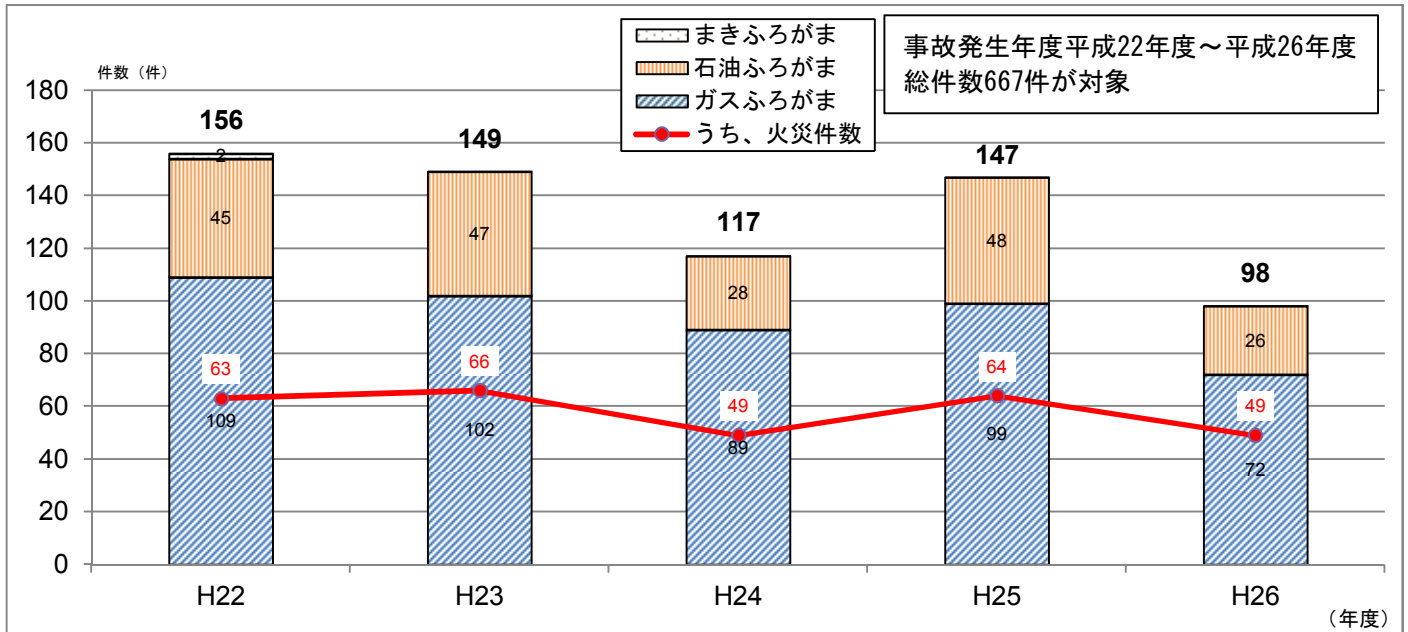


図1 年度別 事故発生件数

(2) 月別 事故発生件数

図2に「月別 事故発生件数」を示します。

ふろがまによる事故は一年を通じて発生していますが、1月～2月にかけて多く発生しています。

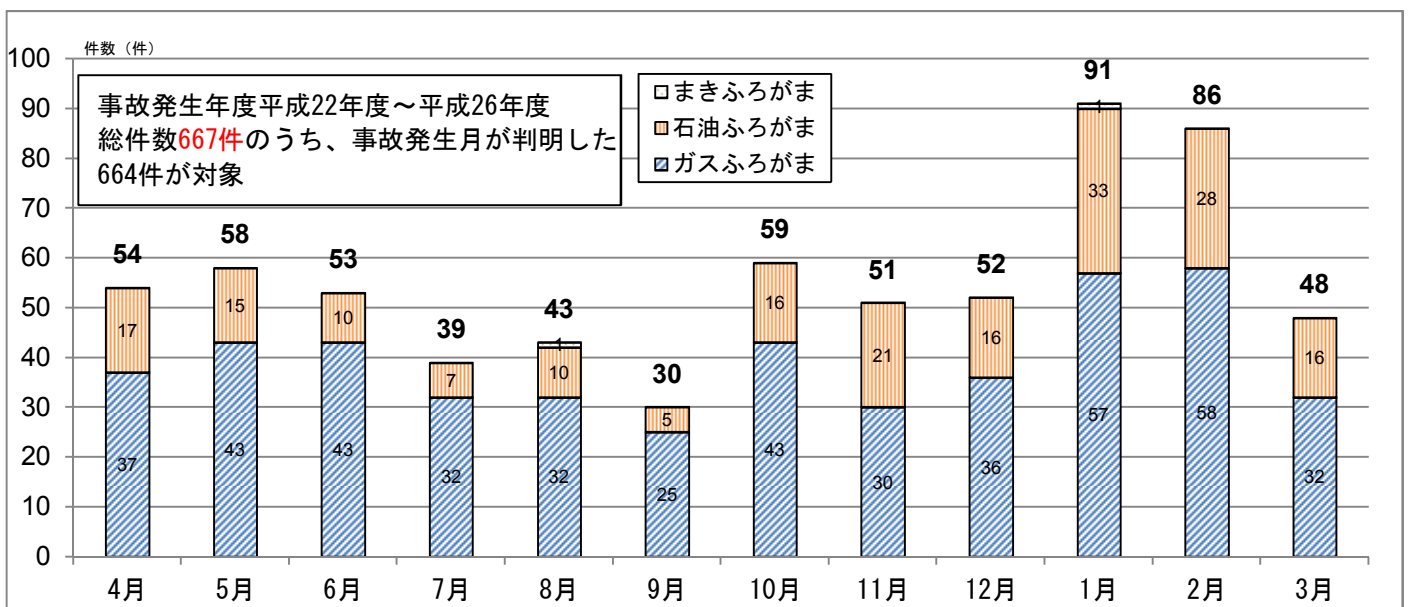


図2 月別 事故発生件数

(3) 製品別 被害状況別 事故発生件数

表1に「製品別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

ガスふろがまによる事故が最も多く471件発生しています。次いで石油ふろがま194件、まきふろがま2件となっています。

石油ふろがまによる事故においては、火災を伴う事故が非常に多く178件発生しています。

平成25年2月21日に行った注意喚起（平成19年度～平成23年度）と比較すると、事故総件数が847件から667件へと減少しています。特に石油ふろがまにおいて、事故件数が303件から194件へ大幅に減少しています。

表1 製品別 被害状況別 事故発生件数^{※5}

製品名	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
ガスふろがま		2 (2) [0]	10 (10) [1]	30 (31) [4]	69 [57]	353 [49]	7 [0]	471 (43) [111]
	(内数) 密閉式		4	19	24	212	5	264
	(内数) 半密閉式	1		2	6	22		31
	(内数) 屋外式	1	6	8	37	91	2	145
	(内数) ガスふろがま用パーナー等			1	2	28		31
石油ふろがま			1 (1) [1]	7 (7) [7]	116 [111]	67 [59]	3	194 (8) [178]
	(内数) まき兼用石油ふろがま			1	16	4	1	22
まきふろがま					2 [2]			2 (0) [2]
合計	事故件数	2	11	37	187	420	10	667
	被害者数	(2)	(11)	(38)				(51)
	火災件数	[0]	[2]	[11]	[170]	[108]	[0]	[291]
(参考) 平成19～23年度 注意喚起 (平成25年2月21日)	ガスふろがま	2	12	61	83	372	14	544
	石油ふろがま	3	1	16	175	105	3	303
	合計	5	13	77	258	477	17	847

(※5) 平成28年2月1日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(4) 使用期間別 事故発生件数

図3に「使用期間別 事故発生件数」を示します。

ふろがまによる事故は長期間使用された製品によるものが非常に多く、使用期間が10年を超えて発生したものが420件あります。

特に石油ふろがまは、使い始めて10年前後から事故件数が増加しています。

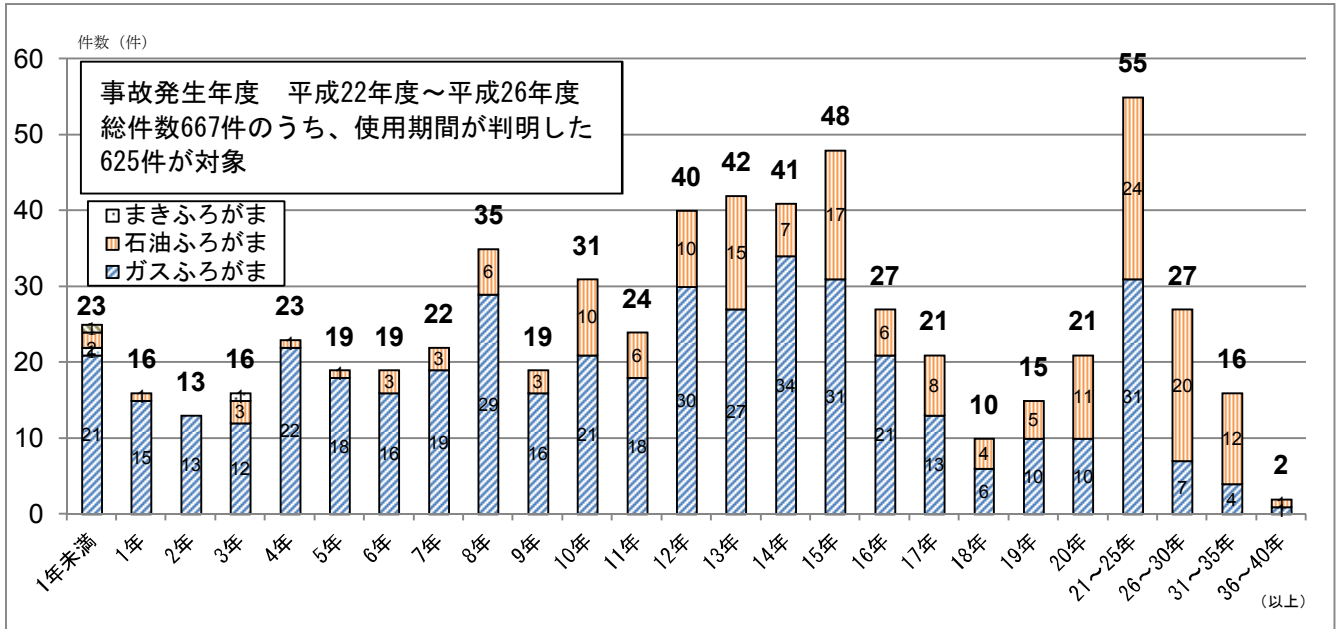


図3 使用期間別 事故発生件数

(5) 年代別 被害者数

図4に「年代別 被害者数」を示します。

ガスふろがまによる事故は、特に30歳代以下において重篤な被害が多く発生しています。また、石油ふろがまによる事故はいずれも軽傷で、複数の年代において発生しています。

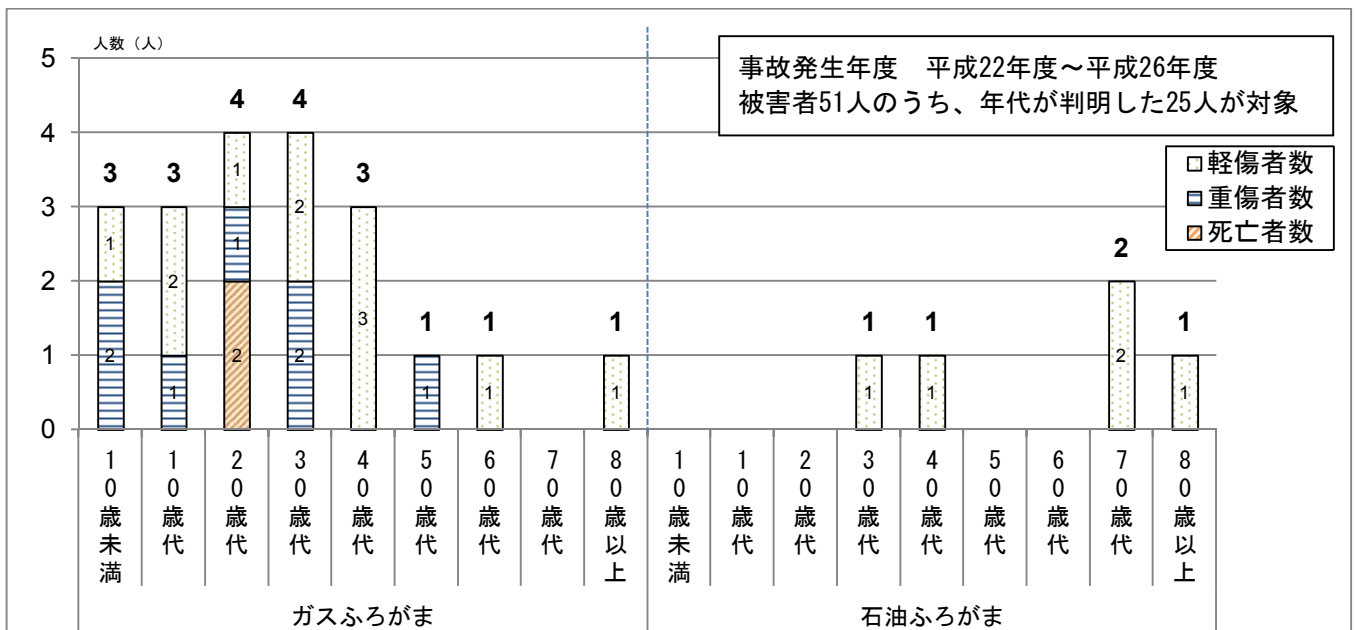


図4 年代別 被害者数

(6) 原因区分別 事故件数及び被害状況

① 原因区分別 事故件数

図5に「事故原因区分別 事故件数」を示します。

事故原因区分（別紙1参照）に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故（事故原因区分A、B、C、G3） 184件（27.6%）
- 製品に起因しない事故（事故原因区分D、E、F） 334件（50.1%）
- 原因不明のもの（事故原因区分G3を除くG） 120件（18.0%）
- 調査中のもの（事故原因区分H） 29件（4.3%）

となっています。

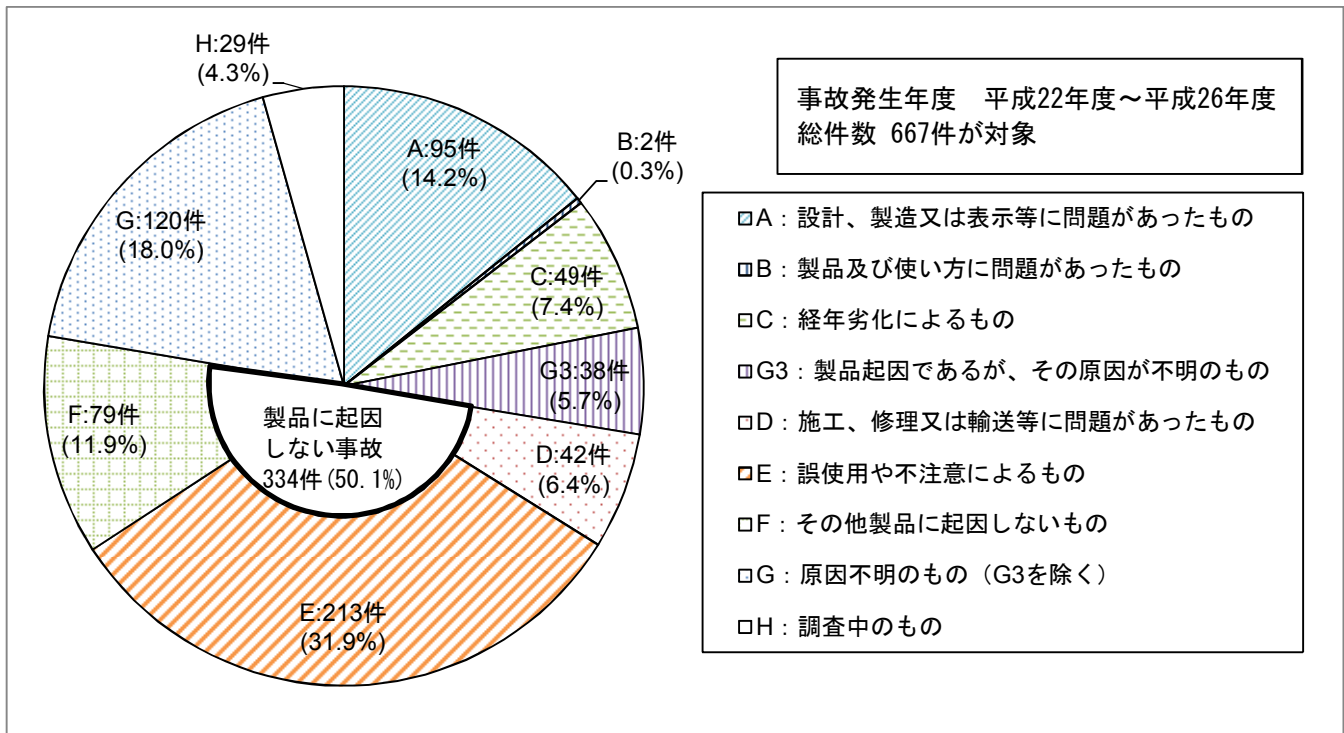


図5 原因区分別 事故件数（単位：件）

② 原因区分別 被害状況

表 2 に「原因区分別 被害状況」を示します。

表 2 原因区分別 被害状況^{※5}

被害状況 事故原因区分		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの		2 (2)	5 (6)	14 [12]	72 [44]	2	95 (8) [56]
	B: 製品及び使い方に問題があったもの				1 [1]	1 [1]		2 (0) [2]
	C: 経年劣化によるもの			2 (2) [1]	20 [17]	27 [7]		49 (2) [25]
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの				13 [12]	25 [18]		38 (0) [30]
	小計 (事故件数)	0	2	7	48	125	2	184
製品に起因しない事故	D: 施工、修理又は輸送等に問題があったもの				25 [24]	17 [4]		42 (0) [28]
	E: 誤使用や不注意によるもの		2 (2)	14 (14) [5]	46 [42]	146 [13]	5	213 (16) [60]
	F: その他製品に起因しないもの	1 (1)	4 (4)	4 (4) [2]	19 [17]	51 [6]		79 (9) [25]
	小計 (事故件数)	1	6	18	90	214	5	334
G: 原因不明のもの (G3 を除く)			1 (1)	9 (9) [1]	34 [30]	73 [7]	3	120 (10) [38]
H: 調査中のもの		1 (1)	2 (2) [2]	3 (3) [2]	15 [15]	8 [8]		29 (6) [27]
合計	事故件数	2	11	37	187	420	10	667
	被害者数	(2)	(11)	(38)				(51)
	火災件数	[0]	[2]	[11]	[170]	[108]	[0]	[291]

(※ 5) 平成 28 年 2 月 1 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。() は被害者数。[] は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 事故の現象別被害状況及び事故の事例

(1) 現象別被害状況

表 3-1 及び表 3-2 にガスふろがま及び石油ふろがまの「現象別 被害状況」を示します。

① ガスふろがまによる事故

「つまみ操作の誤りや点火操作を繰り返した等によって未燃ガスが滞留し、異常着火した」事例が最も多く 117 件発生しています。これは特に密閉式のガスふろがまにおいて多く、117 件中 113 件を占めています。

次いで、「積雪や養生シート等によって給排気部が閉塞した状態で使用したため、点火不良等が生じて未燃ガスが滞留し、異常着火」が 41 件（密閉式 17 件、屋外式 24 件）、
「冠水によって機器内部が浸水したため炎あふれが生じて内部を焼損」が 32 件（密閉式 23 件、半密閉式 9 件）等発生しています。

② 石油ふろがまによる事故

「空だき状態となって過熱し異常燃焼」が最も多く 21 件発生しています。これは使用期間が 20 年を超える等、空だき防止装置を備えていない古い石油ふろがまにおいて多く発生しています。

次いで「長期使用に伴う経年劣化」が 18 件、「故障状態・エラー表示が出たまま使用を続けたため、異常燃焼が継続して発火」が 7 件等発生しています。

表 3-1 ガスふろがまによる事故の現象別被害状況※5

現象	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品損破		
事故原因区分B〜F	つまみ操作の誤りや点火操作を繰り返した等によって未燃ガスが滞留して、異常着火			5 (5)	6 [4]	104 [1]	2	117 (5) [5]
	積雪や養生シート等によって給排気部が閉塞した状態で使用したため、点火不良等が生じて未燃ガスが滞留し、異常着火				1	40		41 (0) [0]
	冠水によって機器内部が浸水したため、炎あふれが生じて内部を焼損			1 (1)	3 [2]	28 [4]		32 (1) [6]
	長期使用に伴う経年劣化（給水管に亀裂が生じて水漏れし、燃焼不良によって異常着火等）			1 (1)	7 [5]	24 [4]		32 (1) [9]
	入浴時、熱湯や高温部に接触してやけどを負った		6 (6)	3 (3)				9 (9) [0]
	空だき防止装置が改造された等によって作動せず、空だき状態となって過熱され異常着火				5 [5]	1 [1]		6 (0) [6]
	その他（熱交換器内部にスス等が付着したため不完全燃焼が生じ CO 中毒、浴室でスプレー缶を使用しバーナーの炎に引火等）	1 (1)		5 (5)	23 [20]	28 [6]		57 (6) [29]
	小計（事故件数）	1	6	15	45	225	2	294
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの		2 (2)	5 (6)	4 [4]	54 [28]	2	67 (8) [32]	
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの				2 [2]	6 [1]		8 (0) [3]	
G：原因不明のもの（G3を除く）		1 (1)	8 (8)	10 [7]	67 [3]	3	89 (9) [10]	
H：調査中のもの	1 (1)	1 (1)	2 (2)	8 [8]	1 [1]		13 (4) [11]	
合計	事故件数	2	10	30	69	353	7	471
	被害者数	(2)	(10)	(31)				(43)
	火災件数	[0]	[1]	[4]	[57]	[49]	[0]	[111]

(※ 5) 平成 28 年 2 月 1 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。() は被害者数。[] は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

表 3-2 石油ふろがまによる事故の現象別被害状況※5

現象	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計	
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損			
事故原因区分B、F	空だき状態となって過熱し異常燃焼			1 (1) [1]	15 [15]	5 [5]		21 (1) [21]	
		長期使用に伴う経年劣化（バーナーノズルの噴霧不良による異常燃焼、土台等の腐食に伴う排気熱・炎漏れ等）			1 (1) [1]	14 [13]	3 [3]		18 (1) [17]
			故障状態・エラー表示が出たまま使用を続けたため、異常燃焼が生じて発火				7 [7]		
	その他（周囲の可燃物が排気筒に接触した、排気熱で過熱された等によって発火。点検・整備不良による異常燃焼等）			2 [2]	19 [19]	6 [5]	2	29 (0) [26]	
	まき兼用石油ふろがま	設置場所・設置方法が不適切だったため、排気熱や漏れた炎等によって周囲の可燃物や部品を焼損			1 (1) [1]	2 [2]			3 (1) [3]
		焼却口から火の点いたまき等の燃料や火の粉がこぼれて周囲の可燃物に接触して発火				2 [2]			2 (0) [2]
		その他（点検・整備不良による異常燃焼、空だき状態となって過熱して異常燃焼等）				5 [5]	3 [2]	1	9 (0) [7]
	小計（事故件数）		0	0	5	64	17	3	89
	A：設計、製造又は表示等に問題があったもの					10 [8]	18 [16]		28 (0) [24]
	G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの					11 [10]	19 [17]		30 (0) [27]
G：原因不明のもの（G3を除く）				1 (1) [1]	24 [23]	6 [4]		31 (1) [28]	
H：調査中のもの			1 (1) [1]	1 (1) [1]	7 [7]	7 [7]		16 (2) [16]	
合計	事故件数	0	1	7	116	67	3	194	
	被害者数	(0)	(1)	(5)				(6)	
	火災件数	[0]	[1]	[7]	[111]	[59]	[0]	[178]	

(※ 5) 平成 28 年 2 月 1 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。() は被害者数。[] は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(2) 主な事故事例

① つまみ操作の誤りや点火操作を繰り返した等によって未燃ガスが滞留して、異常着火
平成 24 年 3 月 28 日（石川県、拡大被害）

【事故の内容】

ガスふろがま（密閉式）の点火操作を行ったがお湯が出なかったため、再度点火操作をしたところ、異常着火してガスふろがまを焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

ガスふろがまの点火操作を行った際に、使用者が口火（たね火）の点火を確認せずに、たね火がついていない状態で器具栓つまみの操作を継続したため、未燃ガスが放出され、再点火時に製品内部に滞留したガスに異常着火し、火災に至ったと考えられる。

② 積雪によって給排気部が閉塞した状態で使用したため、点火不良等が生じて未燃ガスが滞留し、異常着火

平成 26 年 2 月（東京都、製品破損）

【事故の内容】

ガスふろがま（密閉式）のケーシングが変形していた。

【事故の原因】

事故当日には大雪が観測されていた。

ガスふろがまの給排気口部が積雪によって塞がれた状態で使用したため、機器内部に未燃ガスが滞留し、その後の点火操作のスパークにより異常着火に至り、ケーシングが変形したと考えられる。

③ 養生シートによって給排気部が閉塞した状態で使用したため、点火不良等が生じて未燃ガスが滞留し、異常着火

平成 26 年 11 月 10 日（神奈川県、製品破損）

【事故の内容】

使用中のガスふろがま（屋外式）から異音が生じ、ケーシングが変形した。

【事故の原因】

ガスふろがまの排気口を外壁塗装工事の養生シートで覆った状態で使用したため、給排気が正常に行われず、未燃ガスが溜まり、点火動作時のスパークにより異常着火し、フロントカバーが変形したと考えられる。

④ 入浴時、熱湯や高温部に接触してやけどを負った

平成 24 年 12 月 1 日（愛知県、1 歳・女兒、重傷）

【事故の内容】

ガスふろがま（屋外式）で追いだき後、幼児を浴槽に入れたところ、両足にやけどを負った。

【事故の原因】

追いだき用配管に水漏れが生じ、空気が混入して温水の循環水流が弱まったため、浴槽内の温水のかくはん機能が低下してふろ上部の湯が高温になったと考えられる。

⑤ 空だき状態となって過熱し異常着火

平成 25 年 12 月 19 日（岐阜県、拡大被害）

【事故の内容】

使用中の石油ふろがまから出火し、住宅を全焼した。

【事故の原因】

空だき防止装置のついていない石油ふろがまを使用しており、浴槽の水を抜いたことを忘れてふろがまのスイッチを入れたため、空だき状態となって発火に至ったと考えられる。

⑥ 長期使用に伴う経年劣化

平成 26 年 2 月 24 日（埼玉県、拡大被害）

【事故の内容】

石油給湯機付ふろがまで追いだきを始めたところ、製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

長期使用（約 22 年）により、送油経路に錆や異物等が付着し、ふろバーナーのノズルに噴霧不良及び燃焼不良が生じ、たまった未燃灯油が気化して機器内に漏れて引火し、火災に至ったと考えられる。

⑦ 故障状態・エラー表示が出たまま使用を続けたため、異常燃焼が生じて発火

平成 26 年 2 月 16 日（青森県、拡大被害）

【事故の内容】

異音がして停電したため確認すると、石油ふろがま及び周辺を焼損する火災が発生していた。

【事故の原因】

石油ふろがま（約 10 年前に購入）はスイッチを入れると不着火によるエラーが表示される状態であったが、再起動して使用を継続したため、起動時の繰り返し点火動作によって蓄積された未燃灯油に引火して一気に燃焼し、火災に至ったと考えられる。

⑧ 焼却口から火の点いたまき等の燃料や火の粉がこぼれて周囲の可燃物に接触して発火

平成 26 年 1 月 5 日（茨城県、拡大被害）

【事故の内容】

まき兼用石油ふろがまにまきを入れて使用中、出火して周辺を焼損した。

【事故の原因】

焼却口より長い木材を入れてふろを沸かしていたため、火のついた木材がこぼれ、火災に至ったと考えられる。

3. 事故を防止するために

(1) ガスふろがまの注意事項

① 点火操作を繰り返しても着火しない場合、点火を中止する

以下のような状況において、数回点火操作を行っても着火しない場合は換気を行い、時間を置いてから再度点火操作を行ってください。

連続して点火操作を行うと、漏れた未燃ガスに引火して火災が発生するおそれがあります。

- シャワーまたは追いだきの使用時、点火つまみを戻しすぎて口火（たね火）を消してしまった。
- 口火（たね火）が点火しにくい
- 口火（たね火）点火からシャワーやふろバーナーへの着火の時に、3秒以上経ってもバーナーに着火しない
- シャワーまたは追いだきを使用中、途中で消火した
再度点火操作を行っても着火しない場合は、使用を中止してガス栓を閉じ、お買い求めの販売店や製造事業者にご相談してください。

② 積雪や養生シート等によって給排気部が塞がれた状態では使用しない

給排気部が積雪や養生シート等によって塞がれた状態でガスふろがまを使用すると、十分な給排気が行われず、不完全燃焼や異常着火が生じるおそれがあります。

大量の降雪があった後は、屋外の給排気部が雪で塞がれていないか必ず確認し、塞がれている場合には取り除いてください。

(写真) ガスふろがまの給排気部に雪が積もっている様子



また、外壁の塗装工事等によって給排気部が養生シートで覆われている時は、ガスふろがまを使用せず、工事終了後、養生シートが取り除かれているか確認してください。

過去には給排気部が閉塞されて不完全燃焼が生じたことによる一酸化炭素中毒事故の事例も報告されているため、注意が必要です。

③ 浴室排水口はこまめに清掃し、冠水に注意する

機器本体が浴室内に設置されている密閉式、半密閉式のふろがまにおいて、浴室の排水口がつまると、あふれた水でガスふろがまの燃焼部等が浸水し、腐食や亀裂が生じたり炎あふれや点火不良が生じて火災に至るおそれがあります。

浴室排水口は定期的に清掃して、つまらないようにしてください。

(2) 石油ふろがま及びまきふろがまの注意事項**① 設置・移設時は事業者に依頼する**

ふろがまを設置・移設する際は、購入店等に相談して専門の事業者依頼してください。

屋外用のふろがまを屋内に設置する、接続箇所に隙間が生じている等、設置場所や接続方法が不適切だと、一酸化炭素中毒のおそれや燃焼不良、排気熱や接続部の隙間から漏れた火の粉等によって火災に至るおそれがあります。

② まき等の燃料を使用する際は、焼却口の寸法に適したものを使用する

まきや新聞紙等の燃料を使用する際は、焼却口に適した寸法のものを使用し、ふたをきちんと閉めてください。

焼却口に入りきらない量のまき等の燃料をつめこむと、焼却口から炎がこぼれて周囲の可燃物に着火するおそれがあります。



(写真) 焼却口から炎がこぼれて周囲の可燃物に着火する様子

(3) ふろがま共通の注意事項**① 追いだきの際は、浴槽に十分な量の水が入っていることを確認して空だきに注意する**

追いだきする際は、水栓が緩んでいないか、浴槽に十分な量の水が入っているか確認してください。浴槽に水が無い状態で加熱すると、空だき状態となって火災に至るおそれがあります。

特に古いふろがまの場合、空だき防止装置が搭載されていないものがあるため、注意が必要です。

② 入浴時は、湯の温度を必ず確認して、やけどに注意する

シャワーの使い始めや入浴する際は、必ずお湯の温度を確認してください。

お湯の量を絞って使う場合は、設定温度よりも熱いお湯が出ることがありますので、注意が必要です。

また、追いだきを行った場合に浴槽の上部と下部とで湯温に差があることがありますので、十分にかくはんしてください。

③ 機器の周辺に可燃物を置かない

機器本体や給排気部の周囲に木材や紙、洗濯物等の可燃物を置かないでください。

排気熱や高温部との接触によって、可燃物が過熱されて発火し、火災に至るおそれがあります。

④ 長期間使用した製品は、事業者による点検を受ける

ふろがまを長期間使用すると、機器の劣化や摩耗によって火災やけがの原因となるおそれがあります。長期間使用した製品は、製造事業者による点検（有料）を受けてください。

屋内式ガスふろがま（密閉式、半密閉式）及び石油ふろがまは「長期使用製品安全点検制度（別紙2参照）」の対象となっており、平成21年4月以降に製造された製品の所有者は、所有者情報の登録が義務づけられています。

また、制度開始以前に製造・輸入された製品や、制度対象外の屋外用ガスふろがまにおいても、製造事業者が任意で行っている点検を受けることが可能です。

⑤ 故障やエラー表示等、異常が生じた場合は直ちに使用を中止する

故障やエラー表示が出た場合は、取扱説明書の指示にしたがってガス栓の確認やエアフィルターの掃除等、適切な対応を行ってください。それでもまだ故障、エラー表示が継続する場合は、直ちに使用を中止してお買い求めの販売店や製造事業者に相談してください。

そのまま使用を続けると、異常燃焼等が生じて火災やけがの原因となるおそれがあります。

4. リコール対象製品による事故の防止

(1) リコール対象製品による被害状況別 事故件数

表4に「リコール対象製品による被害状況別 事故件数」を示します。

ふろがまのリコール^{※6}対象製品による事故は、平成22年度～平成26年度までの5年間に合計118件ありました。このうち105件はリコール実施後に発生したものとなっており、毎年20件前後発生しています。

リコールが行われた製品をお持ちの場合、そのまま使い続けることは非常に危険なため、お使いの製品がリコール製品に該当する場合には、不具合が認識されなくても直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店や製造事業者にご相談してください。

表4 リコール対象製品による被害状況別 事故件数^{※7}

製品の種類	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	払大害	製品損		
ガスふろがま		1 [0]	4 [0]	3 [3]	46 [44]	2 [0]	56 [47]
石油ふろがま		1 [1]		32 [30]	29 [27]		62 [58]
合計	0 [0]	2 [1]	4 [0]	35 [33]	75 [71]	2 [0]	118 [105]

(※6) リコールには消費者への注意喚起を含む。

(※7) 平成28年2月1日現在、重複、対象外情報を除いたリコール製品による事故発生件数。

[] はリコール実施後に発生した事故件数。

(2) リコール情報の検索

NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989年度）以降に製造事業者、販売事業者等の事業者が行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。

ふろがまのリコール情報について、別紙3に記載しています。



<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」等の単語で検索してください。

ガス・石油機器のリコール情報は、（一社）日本ガス石油機器工業会ホームページでも検索を行うことができます。

<http://www.jgka.or.jp/recall/index.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 嶋津 勝美
担当者 池谷、西澤

記者説明会当日

電話 : 03-3481-6566 FAX : 03-3481-1870

○ 記者説明会翌日以降

電話 : 06-6942-1113 FAX : 06-6946-7280

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

表 事故原因区分一覧

	区分記号	本文表記	事故原因区分
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示等に問題があったもの	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの
	B	製品及び使い方に問題があったもの	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの
	C	経年劣化によるもの	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品に起因するが、その原因が不明なもの
製品に起因しない事故	D	施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの
	E	誤使用や不注意によるもの	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの
	F	その他製品に起因しないもの	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの
その他	G	原因不明のもの（G3は除く）	焼損が著しいなどによって、原因が特定できず不明なもの 事故品が入手できないなど調査が行えないもの
	H	調査中のもの	調査中のもの

ガス・石油ふろがまの事故防止対策

ガス・石油機器による事故を防止するため、「消費生活用製品安全法」、「ガス事業法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」等の各種法令において、ガス・石油ふろがまの技術基準が定められています。

1. ガスふろがま

(1) 法令によって定められた安全装置

① 立ち消え安全装置（昭和47年7月）

立ち消えが生じた時、ガスの供給を止めて運転を停止。

② 空だき安全装置（昭和55年4月）

空だきを検知してガスの供給を止め、運転を停止。

③ 不完全燃焼防止装置（平成19年4月）

※半密閉式ガスふろがまが対象。

不完全燃焼を検知してガスの供給を止め、運転を停止。

(2) ガスふろがまに表示されるPSマーク

ガス事業法並びに液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律の改正に伴い、現在販売されている安全基準に適合したガス用品及び液化石油ガス器具には、「PSマーク」が表示されています。

① 特定ガス製品

バーナー付ガスふろがま（半密閉式）、ガスふろバーナー



② 特定ガス用品以外のガス用品

バーナー付ガスふろがま（密閉式、屋外式）



③ 特定液化石油ガス器具等

バーナー付ガスふろがま（半密閉式）



④ 特定液化石油ガス器具以外の液化石油ガス器具等

バーナー付ふろがま（密閉式、屋外式）、



- (3) バランス型ふろがま（BF 式ガスふろがま）における業界の自主的な取組
業界の自主的な取組によって、平成 23 年 4 月以降に製造されるバランス型ふろがま（BF 式ガスふろがま）は、乾電池とマイコン制御によって点火能力が向上するとともに、以下の 4 つの安全機能が搭載されるようになりました。
- ① 誤操作等による異常着火防止機能
口火（たね火）を誤って消火した後の再点火による異常着火を防止
 - ② ふろ消し忘れ防止
ふろの長時間消し忘れを防止。
 - ③ 冠水による機器内部焼損・異常着火防止機能
炎あふれによる機器内部の焼損、冠水排水後の異常着火等、ふろがまが冠水したことに起因する異常着火を防止。
 - ④ タイムスタンプ機能
10 年使用相当で点検時期をランプ点滅表示。

[参考]

経済産業省作成の安全啓発チラシ「バランス型ふろがまをお使いの皆様へ」
http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/lpgas/files/furogama.pdf

2. 石油ふろがま

石油ふろがま^{※1}は、平成 21 年 4 月 1 日から消費生活用製品安全法の「特定製品」に指定され、空だき防止装置の搭載や一酸化炭素濃度基準値の遵守等が義務づけられるようになりました。

平成 23 年 4 月 1 日以降に販売される石油ふろがまには PSC マーク（下図参照）が表示されています。

石油ふろがまに表示される PSC マーク

消費者が日常使用する製品（消費生活用製品）のうち、構造、材質、使用状況等からみて、一般消費者の生命又は身体に対して危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品を「特定製品」としています。

現在は、石油ふろがま、石油ストーブ、家庭用の圧力なべ及び圧力がま等、10 製品が指定されています。



(※1) 石油給湯機付ふろがまを含む。まき兼用石油ふろがまは含まない。

3. 長期使用製品安全点検制度

長期使用に伴う経年劣化の事故の防止を目的として、消費者自身による保守が難しく、経年劣化による重大事故の発生のおそれが高い9製品（特定保守製品）を対象に平成21年4月から「長期使用製品安全点検制度」が始まっています。

本制度は、屋内用ガスふろがま及び石油ふろがまが対象となっており、平成21年4月以降に製造・輸入された製品の所有者は、製造・輸入事業者への所有者情報の登録※2が義務付けられています。

所有者情報を登録すると、設計標準使用期間※3に基づく点検時期が近づいた時に、点検の案内が届くようになります。

製品を安全に使用するため、事業者による点検を実施し、必要に応じて整備・修理を行ってください。

(※2)所有者登録票（所有者情報登録はがき）を販売者に渡す、製造・輸入事業者へ郵送するほか、製造・輸入事業者のホームページからでも登録が可能です。詳細は製造・輸入事業者にご相談ください。

(※3)標準的な使用条件の下で使用した場合に、安全上支障がなく使用することができる標準的な期間として設計上設定される期間です。製品の無償保証期間とは異なりますのでご注意ください。

■ 特定保守製品 一覧

屋内式ガスふろがま（都市ガス、LP ガス）、屋内式ガス瞬間湯沸器（都市ガス、LP ガス）、石油給湯機、石油ふろがま、密閉燃焼（FF）式石油温風暖房機、浴室用電気乾燥機、ビルトイン式電気食器洗機

(下図)所有者票（所有者情報登録はがき）の見本

<参考：NITE プレスリリース（平成27年10月29日）>

長期使用製品安全点検制度をご存じですか？～製品の長期使用に伴う事故にご注意ください～
<http://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2015fy/prs151029.html>

4. あんしん点検（法律に準じた点検）

長期使用製品安全点検制度の対象となっていない屋外式ガスふろがま等の製品（屋外に設置されるガス温水機器）においても、任意で点検（有料）を受けることが可能です。

対象製品一覧（※いずれも屋外設置式）

ガス給湯器、ガスふろ給湯機、ガスふろがま、ガス給湯暖房機、温水熱源専用機

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2013/07/10	ガスふろ給湯器	(製造)株式会社ハウステック (販売)大阪ガス株式会社 東京ガス株式会社 株式会社ノーリツ モリタ工業株式会社	<p>[製品名及び型式] 外壁貫通設置型ふろ給湯器 1) 販売ブランド: 株式会社 ハウステック : WF—S1601シリーズ 製品型式名: WF—S1601AT、WF—S1601AT—C、WF—S1601AT—KJ、WF—S1601AT—C—KJ、WF—S1601ATD 2) 販売ブランド: 大阪ガス株式会社 製品型式名: 131—K970、131—K971、131—K972、131—K959 3) 販売ブランド: 東京ガス株式会社 製品型式名: HK—S816RFWHB—RA/HK—S816RFWHBRAK 4) 販売ブランド: 株式会社ノーリツ: ガスふろ給湯器(バスイング) 製品型式名: GTS—C165A/GTS—C165AC/GTS—C165AD 5) 販売ブランド: モリタ工業 株式会社: ML—C1601Hシリーズ 製品型式名: ML—C1601HS/ML—C1601HC/ML—C1601HL [URL] 株式会社ハウステック http://www.houseotec.co.jp/2013/07/wf-s1601.html 大阪ガス株式会社 http://www.osakagas.co.jp/company/press/pr_2013/1204483_7831.html 東京ガス株式会社 http://www.tokyo-gas.co.jp/important/20130710-01.html 株式会社ノーリツ http://www.noritz.co.jp/info/30.html モリタ工業株式会社 http://moritakk.co.jp/documents/ProductsInfo_20130710.pdf</p>
2007/04/19 再社告 2013/03/07	ガスふろがま、 ふろがまバーナ、 ガスストーブ	株式会社 世田谷製作所	<p>[製品名及び型式] ・ふろがま 株式会社世田谷製作所 R38B、R137B、CS31B、CS32B、CS33B、FE15 株式会社 オカキン OK-AR型-LE(*1)、OK-BR型-LE(*1) 東京ガス株式会社 ST-913RFA(*2)、ST-912RFBシリーズ(*2)、ST-9150CFS(*2) 株式会社 ハーマン YF702(*2) ・ふろがまバーナ 株式会社世田谷製作所 TA-097UET、TA-270UET、TA-OK270UET ・ガスストーブ 株式会社世田谷製作所 GS-1 *1は株式会社 世田谷製作所の対象ふろバーナを供給。*2は株式会社 世田谷製作所OEM品。 [URL]http://www.setagaya-seisakusyo.co.jp/</p>
2011/06/22	密閉式(BF式)ガス ふろがま(電池式)	株式会社ガスター(製造) 東京ガス株式会社(販売) 大阪ガス株式会社(販売) リンナイ株式会社(販売) 株式会社長府製作所(販売)	<p>[製品名及び型式] ・YUMEX(ガスターブランド): 都市ガス仕様・LPG仕様 製品名 SR-ASN-*** (シャワー付き)、SR-ASBN-*** (シャワー付き)、 SR-A60SN-*** (シャワー付き)、SR-A60SB2N-*** (シャワー付き)、 SR-A60S2N-*** (シャワー付き)、SR-A80SN-*** (シャワー付き)、 SR-A80S2N-*** (シャワー付き)、ER-ASN-*** (シャワーなし) ・東京ガスブランド: 全機種都市ガス仕様 機種名 KG-806BFOシリーズ(シャワー付き)、KG-706BFOシリーズ(シャワー付き)、 KG-808BFOシリーズ(シャワー付き)、KG-912BFDシリーズ(シャワーなし)、 KG-912BFBシリーズ(シャワーなし) ・大阪ガスブランド 機器型式 531-R940~R945(給湯・シャワー付き/都市ガス仕様)、 531-R952、R953、R962、R963(おふろ沸かし専用/LPGガス仕様) ・リンナイブランド: 都市ガス仕様・LPG仕様 シリーズ名 RBF-A3*** (シャワー付き)、RBF-A60S*** (シャワー付き)、 RBF-A70S*** (シャワー付き)、RBF-A80S*** (シャワー付き)、 BF-AS*** (シャワー付き) RBF-AERS*** (シャワーなし) ・長府製作所ブランド: 都市ガス仕様・LPG仕様 製品名 BFS-638S、858S(シャワー付き)、BF-108S(シャワーなし) [URL] 株式会社ガスター http://www.gastar.co.jp/news/pdf/20110622-1.pdf</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2009/09/01	石油給湯機	長州産業株式会社	[製品名及び型式] 石油小型給湯機本体型式/台所リモコン型式/浴室リモコン型式 IX-471DH/RC-80M/-、 JX-411DG/RC-80M/-、 MX-471DG/RC-80M/-、 MX-471DH/RC-80M/-、 PX-411DG/RC-80M/-、 YX-371D/RC-80M/- 石油給湯機付ふろがま本体型式/台所リモコン型式/浴室リモコン型式 IF-471DH-A/RC-82M/RC-82A、 JF-411DG/RC-81M/RC-81F、 JF-411DG-A/RC-82M/RC-82A、 MF-471DH-A/RC-82M/RC-82A、 PF-411DG/RC-81M/RC-81F、 PF-411DG-A/RC-82M/RC-82A [URL] http://www.choshu.co.jp/modules/information/
2009/03/06	ガスふろ給湯器	株式会社ノーリツ(製造)(販売) 株式会社日立ハウステック(販売)	[製品名及び型式] 屋内設置型強制給排気式「ガスふろ給湯器」 販売ブランド:ノーリツ 製品型式名:GT-165W-FFA、GT-165AW-FFA、GT-165AWX-FFA [URL] http://www.noritz.co.jp/info/10.html
2009/02/05	ガスふろがま	株式会社長府製作所	[製品名及び型式] 型式:GF-200D= ガス種:LP 製造番号:040142~064540 ガス種:都市ガス 製造番号:005617~009390 型式:GF-201DE= ガス種:LP/製造番号:017147~029121 ガス種:都市ガス/製造番号:005131~008146 [URL] http://www.chofu.co.jp/important/20090204.html
2007/06/09 再社告 2008/03/17	ガスふろ給湯器(再社告)	株式会社ノーリツ(製造・販売元) 株式会社日立ハウステック(販売元)	[製品名及び型式] ○(株)ノーリツ GRQ-161/A/SA、GRQ-201/A/SA、 GRQ-162/SA/F/SAF、GRQ-163A、 GRQ-203A/SA、GRQ-204SA ○(株)日立ハウステック KZ-161A/FE/SA、KZ-162A、KZ-201A/SA、KZ-202A/SA [URL] (株)ノーリツ http://www.noritz.co.jp/ (株)日立ハウステック http://www.hitachi-ht.com/
2007/08/06	ガスふろ釜	株式会社 ノーリツ	[製品名及び型式] 寒冷地向けシャワー付バランス型ガスふろ釜 (GBSQ-815-KR) 販売ブランド:ノーリツ 対象ガス種:ガス種 L1・L2・L3 [URL] http://www.noritz.co.jp/info/09.html
2007/08/02	シャワー付バランス型ふろ釜	株式会社 ガスター	[製品名及び型式] 寒冷地向けシャワー付バランス型ガスふろ釜 ※製品名が「対象製品名」で、かつガス種が「対象ガス種」の機器が該当製品。 製造元 販売会社 ブランド 対象製品名 対象ガス種 株式会社ガスター 株式会社ガスター 株式会社INAX YUMEX SR-3SK1* 5C、6A L1(6B、6C、7C) L2(5A、5AN、5B) L3(4A、4B、4C)ガス種は()内の単独表示もあり。 SR-3K1* リンナイ株式会社 Rinnai RBF-3SK1* 北海道ガス KITAGAS KGA-760BF* KGA-761BF* KRN-761BF* ※対象製品名の末尾*に英数字が表示されています。 [URL] http://www.gastar.co.jp/
2007/07/28	石油ふろがま・追焚付石油給湯器	株式会社長府製作所	[製品名及び型式] ・石油ふろがま JK、JK2、JK-N、JPS-T3、JPK-N3、CK-8・8E、CK-9・9E、CK-10・10S、CK-11・11S ・追焚付石油給湯器 JIB-T、JIB-2T、JIB-4、JIB-5*、JIB-6*、JIB-7* [URL] http://www.chofu.co.jp/support/important/20070727.html

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2006/12/13	ふろ釜	株式会社ガスター	[製品名及び型式] シャワー付きBFふろ釜 株式会社ガスター／株式会社INAX YUMEX SR-133SDX リンナイ株式会社 Rinnai RBF-133SDX [URL] http://www.gastar.co.jp/news/pdf/PressRelease20061212.pdf
2006/12/13	ふろ釜	大阪ガス株式会社	[製品名及び型式] シャワー付BFふろ釜 32-876型 32-877型、32-878型、32-879型（製造：株式会社ガスター） [URL] http://www.osakagas.co.jp/oshirase/furo.html
2006/12/12	ふろ釜	東京ガス株式会社	[製品名及び型式] シャワー付BFふろ釜 KG-813BFA-FXS、KG-813BFA-FXSH1、 KG-813BFA-FXSH2、KG-813BFA-FXSM1、 KG-813BFA-FXSM2 （製造：株式会社ガスター） [URL] http://www.tokyo-gas.co.jp/Press/20061212-01.html